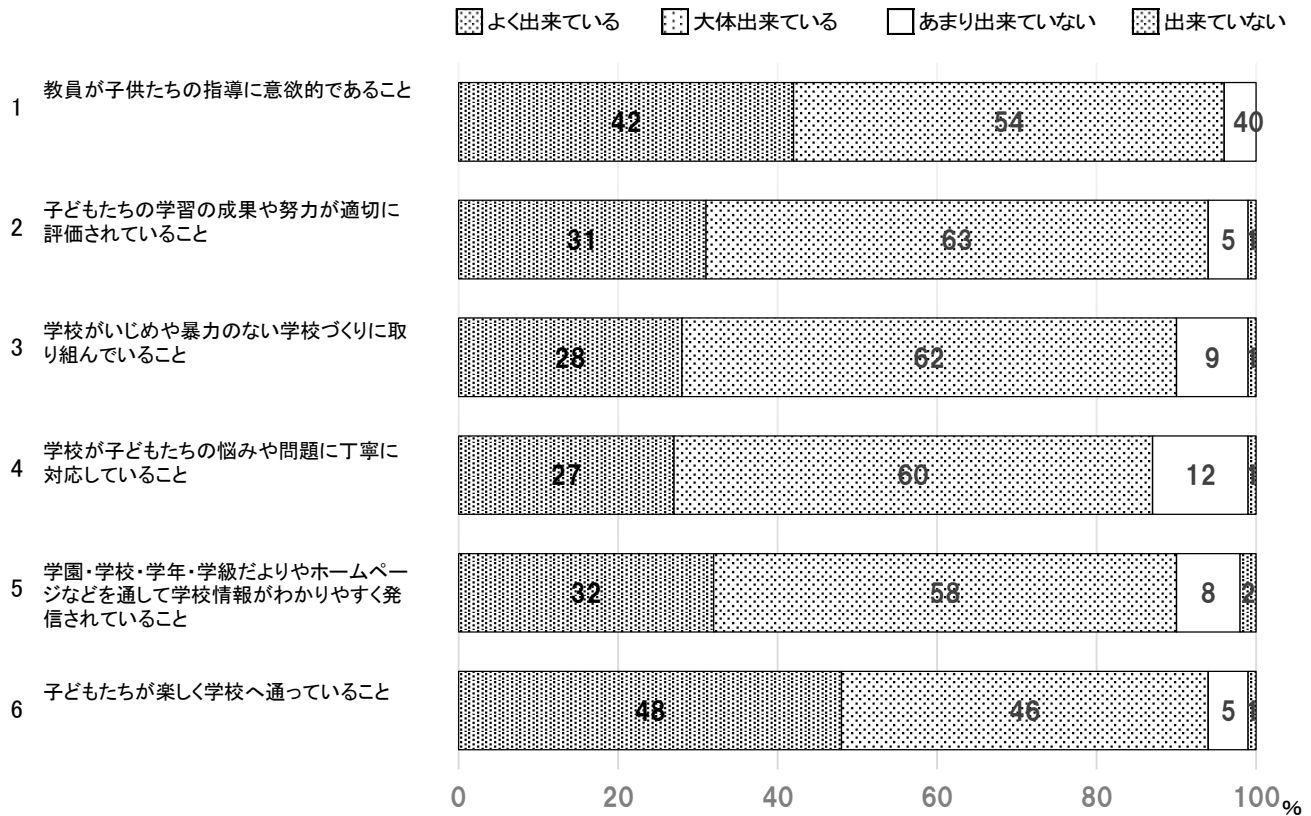


令和2年度 三鷹中央学園 学園・学校評価アンケートまとめ

【第七小学校】

アンケート実施日 : 令和2年10月28日～11月5日
 アンケート対象者 : 第七小学校保護者
 回収率 : 304世帯/319世帯(95.3%)



アンケート結果から得られた成果と課題

※「肯定的回答」…「よく出来ている」「大体出来ている」の合計
 ※「否定的回答」…「あまり出来ていない」「出来ていない」の合計

成果

今年度は質問項目を整理し、3項目減らして6項目としました。「子供の悩みや問題への対応」以外の項目は90%以上の高い数値となりました。「教員が意欲的である」が96%で最も高い数値となりました。コロナ禍の中、教員が、子供たちが安心して学校生活を送るよう、努めてまいりました。また、「子供たちへの適切な評価」についての項目は、昨年度から6%上昇し、「子供たちが楽しく学校に通っていること」とともに94%となっていました。新学習指導要領の全面実施に伴い、評価の観点を見直した今年度でした。「悩みや問題への対応」については3%上昇し87%でしたが、併せて児童アンケートの「悩みや問題を相談できる人」が4, 5年生で、「理解してくれる先生」の数値が5, 6年生で上昇していました。また、児童アンケートでは、「友達の良いところを認める」「友達が困ったりいやがったりすることをしない」が全学年で90%以上の高い数値となっており、友達を大切にしようとする姿勢が見られました。引き続き一人一人を丁寧に見ていくことを大切にまいります。

課題

最も低い肯定的回答で87%と全体としては低くはない結果でしたが、「悩みや問題への対応」について否定的回答が13%であることについては、13%に当たる方が不安に感じていることを想定し、日常の子供との関わりやアンケート、面談などを通し、しっかりと対応していくようにします。また、児童アンケートにおいて「将来について考える」、「クラスの一員として役立っている」が複数の学年で昨年度より多くて13%も下がっていました。コロナ禍の中、児童が将来について考えにくかったり、自信をもちづらかったりすることも想定できます。キャリア教育については学園の保護者アンケートでも否定的回答が30%ということもあり、キャリア教育や自己有用感を高める教育活動を工夫していくことが重要だと考えます。「学校情報の発信」については、今年度は昨年度と比較し、学校からのホームページ等の発信を多くしたのですが、評価としては上昇はしておらず10%の方が否定的回答となっていました。情報の発信方法や内容の工夫などが必要であると考えます。